

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町提出日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470301090-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設の運営母体は医療法人の為、常に入居者様の健康管理を行っています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応も万全です。ご縁をいただいたご入居者様は、ご希望により、終末まで対応させていただいています。法人理念である「人生の先輩としての尊敬の念を持ち、安堵安心を捧げ、真心を持って接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。石薬師は歌人佐々木信綱生誕の地です。唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花」の垣根に囲まれ、庭には実のなる木が植えてあり、緑が溢れ、四季の移り変わりが楽しみでもあります。入居者様、職員はとも明るく笑顔を絶やさず和気あいあいと生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出や家族との直接面会を自粛の状況下、感染症予防対策として職員に対し定期的に抗原定性検査を実施、日々のうがい・手指消毒・室内の除菌や換気を徹底し、感染防止に努めている。生活リハビリとして洗濯物干し・洗濯物たみ・床掃除・歌体操・脳トレ・紙芝居・塗り絵等で利用者とのコミュニケーションを大切にし、利用者の意向に添える介護が実践されている。日常の健康面については、毎週月曜に訪問看護師による健康チェック、月2回母体の朝川クリニックの訪問診療、緊急時の往診、24時間対応が可能であり、利用者や家族が安心できる医療支援が来ている。重度化や終末期の状態になり家族から看取りの希望があれば、家族・主治医・職員が話し合い、主治医(母体のクリニック)と連携し看取り支援をする方針であり、直近1年間で4名を看取った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に職員全員で作ったグループホームの理念を毎日朝礼で唱和し、意識づけ、それらの理念に添ったサービスを実践している。	2ユニットとも、利用者と職員はアットホームな雰囲気の中、職員は常に笑顔で優しく接していて、事業所理念『笑顔で作る 優しさの輪』と三つのお約束を大切に、笑顔とチームワークで利用者が地域の中で安心して暮らせるよう、心に寄り添う介護が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、運営推進会議でも地域の情報をいただいている。現在、コロナウイルス感染症が広がっており自由に交流ができなくなっている。	コロナ禍で地域の行事が中止になり、地域との交流の機会が持てなかった。近隣農家の方が事業所前の畑に四季折々観賞用の花を栽培してくださり見学が楽しみとなっている。管内の老人クラブの会長とは常に情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議で認知症の方の対応や日々の実践しているケアについて情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者家族、自治会長、民生委員、老人会会長、主治医、地域包括センター職員が出席し、日々の取り組みやサービスの内容を説明し、意見交換を行っている。感染拡大防止の為、書面会議となった時はFAXでご意見をいただいている。	コロナ禍のなかであるが、感染症防止を徹底し年2回従来通り各委員の出席で開催、年2回以外は書面により開催し、参加者から多くの意見や助言があり運営に活かしている。書面による開催についても意見や助言が得られるよう返信用紙を添える等工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係書類は直接担当者に提出し、その際には事業所の実績や取り組みも伝達している。以前は介護相談員が来所し、様々な取り組みを伝達していたが、現在は感染症対策にて中断している。	コロナ禍であることから、事務連絡・情報交換は電話やメールで行っている。介護更新等書類の提出や相談事は広域連合に出向き担当者と面談し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やマニュアルに添って「身体拘束をしないケア」を実践している。新任・現任研修を行いスピーチロックにも気を配り、その人らしい支援に取り組んでいる。玄関は夜間以外自動ドアにしています。	身体拘束等適正化委員会は3カ月毎に開催し、会議録を作成のうえ内容は職員が共有出来ている。委員会ではヒヤリハット、事故報告事例から具体的な対応策が話し合わせられ介護現場に活かしている。職員研修は書面や動画で行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に取り入れて学習し、日々のケアの中でも常に注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族が後見人を必要と相談を受けたので、地域包括と共同で成年後見制度導入に向けて支援した。事業所玄関にもパンフレットを置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取り、書類を確認しつつ質問を伺いながら丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症対策の為、面会も自粛の中でも毎月のお手紙や電話でのやり取りでお気持ち等聞かせて頂いている。	家族には、毎月発行の『うの花便り』とともに利用者毎の暮らしの様子をラインや動画、手紙で報告し、電話やメールで意見や要望を聞いている。意見で後見人制度のお尋ねがあり地域包括の協力で解決した。蔓延防止期間が解除になれば玄関先で短時間の面会が出来るよう考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で発した職員の意見等管理者がくみ取り、毎週行っている運営会議で報告し善処している。その他「リクエストシート」を活用し対処している。	管理者は、常に介護の場にいることから、職員とのコミュニケーションは良く、日常的に意見や要望が気軽に言える環境にあり、リクエストシートにより提案もできる。レクリエーションは職員のアイデアが活かされている。	意見や要望、アイデアを職員皆で話し合う機会(ミーティングや職員会議等)を設けて、より利用者支援の向上と運営に活かされることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度を活用し、各職員の努力や実績を反映させている。各職員の「やる気」に繋げ、向上心を持って働けるよう職員環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から届いた研修の案内は事業所内に掲示し職員が積極的に参加できるように支援している。最近リモート研修となっている。事業所内の研修は現任研修計画に沿って実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会の会員になり、ネットワークづくりやリモートの勉強会をおこなっている。会報も届くので活用しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の準備として関係機関から様々な情報をいただき本人と面談しているが、その際には困りごとや意向などの聞き取りを行うと同時に、言葉では表現できないようなことは表情などから推測できることもあり、しっかり受け止めて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や要望をしっかりと把握するように努めている。気軽に話していただけるような環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向が合致しないケースが多く、在宅生活が継続できるような様々なサービスの活用等の提案も行った上で入居の判断をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嗜好や得意としていること、残存能力等を見極め、人生の先輩である入居者の皆さまから教わる姿勢での関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策の為、面会にはお越し頂けない状況ですが、電話やお便り、メールやLINEで当所での暮らしの様子をお伝えしながら、本人と家族の絆を大切にし、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEを活用し、日々の様子やイベント等の様子を動画に撮って送っている。娘様からも楽しい動画が届くなど、遠くに離れて住む娘様とも関係を保っている。	利用者の平均年齢が91歳と高齢となり、コロナ禍でもあることから、人や場との関係継続は殆ど出来なかったが、家族への動画、家族から孫の動画の提供、友達からの電話の取次等での対応となった。蔓延防止解除後には従来通りの面会や買い物、美容室へ出かける予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要に応じて職員が間をとったり、席替えをしたりと利用者同士がかかわりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も必要に応じて相談等に応じている。状況を伝えてくださる家族様もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を伝えられる入居者は少なく、日頃の行動や表情、何気ない会話も大切にしている。各職員が得た情報は共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に支援している。	利用者自ら思いや意向を言える方が少なくなってきたことから、利用者に関わる時間を大切に、会話とその日の体調や表情、仕草から把握している。把握した事項は個別の介護記録に記入するとともに、その都度口頭で職員皆に伝え共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に過去の生活歴や暮らし方等記入していただくシートを家族に渡し、記入していただき参考にしている。入居後は本人からの何気ない会話等から把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身の変化に気を付けて支援している。心身の状況はその時により変化するので毎日の記録や申し送り等で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために職員の気づきを大切にしている。気づいたことはリクエストシートに記入し計画を話し合い反映している。計画担当者は毎月モニタリングを行い定期的にカンファレンスを実施し見直しを行っている。	モニタリングは、毎月計画担当者(ケアマネ)で行い、関係職員参加の担当者会議で話し合いのうえ計画の原案を作成し、家族の要望、意見を反映した計画を、定期的には6カ月毎に、利用者の体調に変化があればその都度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は計画を記載してある介護記録用紙に毎日の支援を記入している。計画担当者は毎月支援経過を記載すると同時に訪問診療時の医師のコメントや服薬状況も記載し共有できるように個別記録と一緒に綴じており、職員は適時確認し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や外食、買い物等を要望により実施してきたが、現在は感染症問題があり実施できない状況にある。また、地域活動も同じく普段行ってきたことができなくなっているが、その代わりに施設内での楽しみ作りに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪やイベントに参加等、地域の方々の協力を得ていたが、現在は控えなければならない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長である医師が主治医として月2回訪問診療を行っている。又、治療が必要な時には運営母体のクリニックへ支援を行う。専門外への受診は家族とともに職員が同行し適切な治療を受けられるように支援している。	利用者と家族の同意で全ての利用者は、母体の協力医(朝川クリニック)をかかりつけ医としている。毎週訪問看護師による健康チェックと協力医による月2回の訪問診療、緊急時の往診と24時間医療対応が可能あり、利用者、家族、職員とも安心であり適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在だが、毎週1回クリニックの看護師が入居者全員の健康チェックに来訪している。状態が悪い時や痰の吸引時にも対応する他、主治医とのパイプ役として支援している。医療と24時間連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、主治医より入院先の紹介と詳しい情報の提供があり、安心して治療を受けられる体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者、家族は最後まで当所で暮らしたいとの要望が増え、それにより柔軟な対応が必要となっており、入居時に重度化した場合の対応や終末期の支援等を説明している。そのような時が来た場合は主治医と家族、職員が十分話し合い、看取りの支援を行っている。	利用開始時に、重度化や終末期の対応についての指針を説明し同意を得ている。重度化・終末期の状態になれば、家族・協力医・職員と話し合い、家族の希望があれば改めて看取りにかかる同意の下、協力医の指導と連携により看取り支援をする方針であり、既に看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、毎年消防学校でおこなわれる救急法の研修や実技講習に参加している。施設内ではDVDを使い学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を様々な想定をして年2回実施している。運営推進会議でも自治会の方々にお伝えし、いざという時に支援していただける体制をとっている。	事業所は、河川の氾濫・津波・土砂災害のない恵まれた立地にあることから、防災訓練は年2回地震を想定した消火・通報・避難訓練を実施している。職員が鈴鹿消防学校の防災訓練に参加、水や食料の備蓄、ヘルメットや防災頭巾等の備えもあり防災に対する意識が高い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき言葉かけや対応にも尊厳の気持ちを持って接している。入居者一人ひとりの生活歴や特性等を把握したうえで人格を尊重し丁寧な言葉で対応している。トイレ誘導時等もプライバシーを損ねないように配慮している。	利用者に精神的な不安がないように、常に笑顔で接することを意識した会話・声掛けを心掛け、自尊心を傷つけないよう、また、排泄・入浴時は羞恥心を害しないよう心掛けている。利用者と地域との交流にも家族の同意を得るなど個人情報保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の本心を探ったり、思いや希望が話しやすいような会話を心掛け、声かけに対する反応を確認し、利用者の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身の状態に合わせた時間の過ごし方をしてもらっている。起床時間や就寝時間も本人のペースに合わせて、心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、清潔に努めるとともに季節に合った衣服の着用を支援し、お誕生日や行事の時等はおしゃれ感を楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本日の献立を掲示している。季節の献立や地域の郷土料理などメニューも豊富な為どのような料理か話題も広がる。対面キッチンなので料理の匂いも楽しみの一つとなる。食事中は音楽をかけ料理を味わいながら食している。	委託業者の管理栄養士による多様な献立・食材、調理された栄養バランスに配慮された食事が提供されている。調理も刻み・ミキサー・ゼリーにも対応出来ている。朝食の献立は毎回ご飯であったが利用者の希望でパン食も組み入れ、おやつも自前の桜あんまきなどで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後のコーヒーを毎日楽しみにしている方もみえ、飲み物は好みにより用意し水分量は十分確保できている。管理栄養士が立てたメニューで栄養バランスは非常に良い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が口腔内に残らないように、毎食後の口腔ケアを行っている。義歯は每晚洗浄剤を使用し清潔を保っている。自己管理のできない方は、その都度職員がブラッシング、口腔ケアティッシュで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録により一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。自らトイレを使用される方には、その方の習慣を活かしてさり気ない支援を行っている。	昼夜ともオムツの方以外は、見守り、一部介助により起床時、食事前、寝る前に皆さんに声掛け誘導し、個々にはその日の体調や表情、仕草把握し、排泄パターンにあわせ随時声掛け誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動など体を動かす支援と野菜が十分な食事内容で配慮し、好みの飲み物を提供するなど、十分な水分を摂っていただいている。食事や水分は摂取量を記入し不足の方には工夫して提供し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好みと心身の状況に合わせた支援を行っている。お湯は一人ひとり入れ替え、ゆず風呂など季節ならではのお湯も楽しんでいただいている。	入浴は概ね週2回、午前・午後利用者の希望に添いゆっくり、ゆったり入浴となっている。清潔感、感染症予防、いつも1番風呂の気分で入浴できるように、一人ずつ湯を入れ替えている。柚子湯や入浴剤でも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況により支援している。お部屋の温度や照明に配慮し安眠できる環境を作っている。好みのラジオを聴きながらリラックスして休息できるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬管理をおこない確実に投薬できるように支援している。薬品庫には個別の棚に薬とともに処方箋や薬手帳を用意しており、職員は薬の内容を把握し理解して支援し、新しく処方された薬は内容や副作用などを回覧して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や雑誌はテーブルに置き自由に読むことができ、居室への持ち込みも可能としている。懐かしい映画会、紙芝居など感染対策を十分行いながら適時実施し気分転換を図っている。他、運動会やクリスマス会などの季節のイベントも時季に応じて開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を沢山作り楽しんでいただいていたが、感染症対策のため自粛していただいていた。季節感を味わっていただくように少人数ずつドライブにお連れしている。	日常的には、天気が良ければ洗濯物干し、玄関先にある近所の方畑での花見、季節的に春には事業所周辺の散歩と桜やうの花等の花見と外気浴、少人数でドライブを兼ね椿神社へ紅葉狩りや加佐登神社へ初詣するなどの外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度をとっており、個人的にはお金を所持することはない。施設内で使える通貨を作り、イベントでマーケットを開き買い物ができる環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたいとおっしゃる入居者は現在いませんが、要望があれば支援します。電話をかけた方には施設の電話を使っていたりしている。個人で携帯を持っている方は通話やLINEなどの使い方の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて陽当たりの良い空間での生活は、とても居心地が良い。季節感のある壁画に加え、皆さんの笑顔の写真も飾っている。1日中リビングで過ごす方もいらっしゃる。天窗からの採光を浴びながら毎日リハビリもおこなっている。	玄関を入ると正面に雑飾り、居間兼食堂にも7段の雑飾りがあり家庭的な雰囲気が感じられる。共用空間全てが掃除が行き届き整理整頓され清潔である。居間と廊下の随所に利用者自慢の作品と行事ごとの写真が飾られ生活感、季節感が感じられ心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士で考慮しているが、リクライニングチェアで寛いだり、ソファで居眠りしたりと自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッド、クローゼットは備え付けで用意しているが、後は自宅ですべて使っていた馴染みの物を持ってきていただいている。家族はアルバムを用意したり居室内をきれいに飾り付けたりと、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしてくださる。	各居室とも衣服類はクローゼットに整理整頓され、清潔きれいにされている。それぞれお好みのテレビ、机や椅子、小物、中には複数のアルバムが持ち込まれ、壁やタンスの上に写真や小物が飾られ、日々居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるようにと、動線を確保している。ベッドからの立ち上がり困難な入居者にはL字の手すりを設けている。トイレや居室の場所などはよくわかるように掲示を工夫している。		